

南相馬市における宇宙産業への取組みと 福島市との広域連携の意義

令和7年9月25日

福島県 南相馬市

宇宙関連産業推進室

南相馬市について

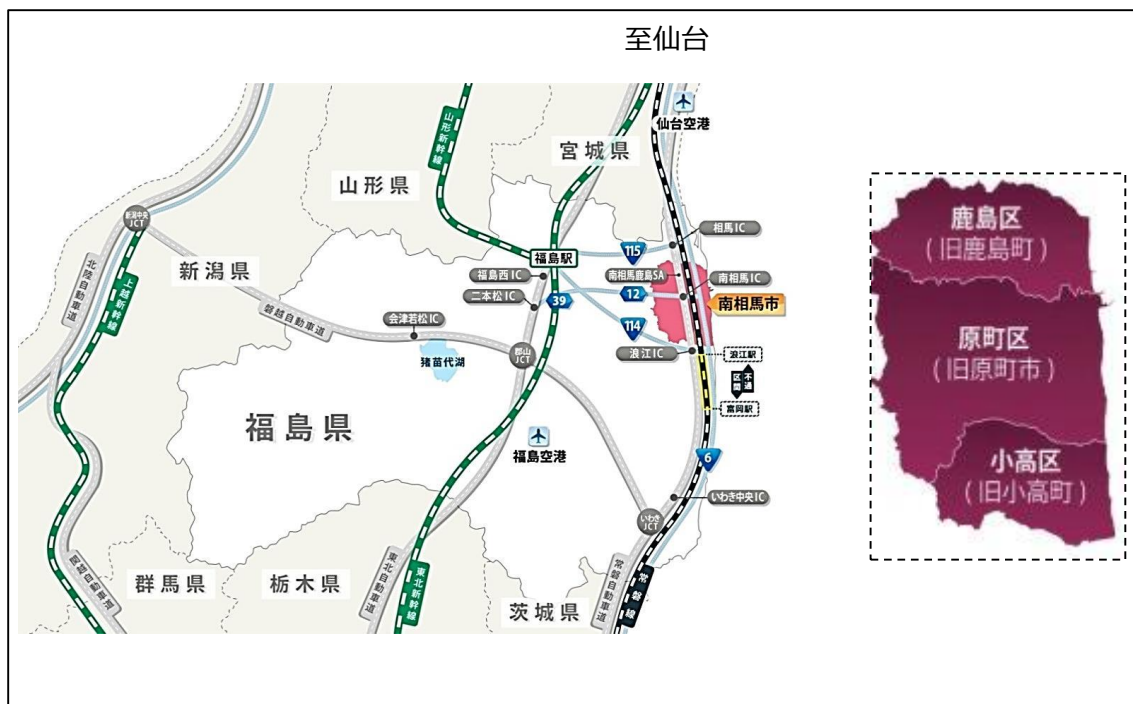


人 口 : 55,376人(令和7年3月31日現在住民登録)

世帯数 : 24,377世帯

面 積 : 398.58km²
(うち約55%が森林、約17%が農地※)

- 平成18年1月1日に旧鹿島町、旧原町市、旧小高町が合併して誕生
- いわき市と宮城県仙台市の間に位置する浜通りの中核都市



南相馬市の概要



(原町区) 北泉海岸

産業・経済：田園都市として、産業・経済集積は浜通り地方北部最大。農業は水稲中心。工業は電気機械、一般機械、紙・パルプを中心に、農商工一帯の産業振興を図っている。



ブロッコリー



相馬野馬追



(小高区) 大悲山の石仏

自然条件：年間平均気温が12℃前後で、夏は涼しく、冬は降雪の少ない温暖な気候。山・川・海の豊かな自然環境に恵まれている。

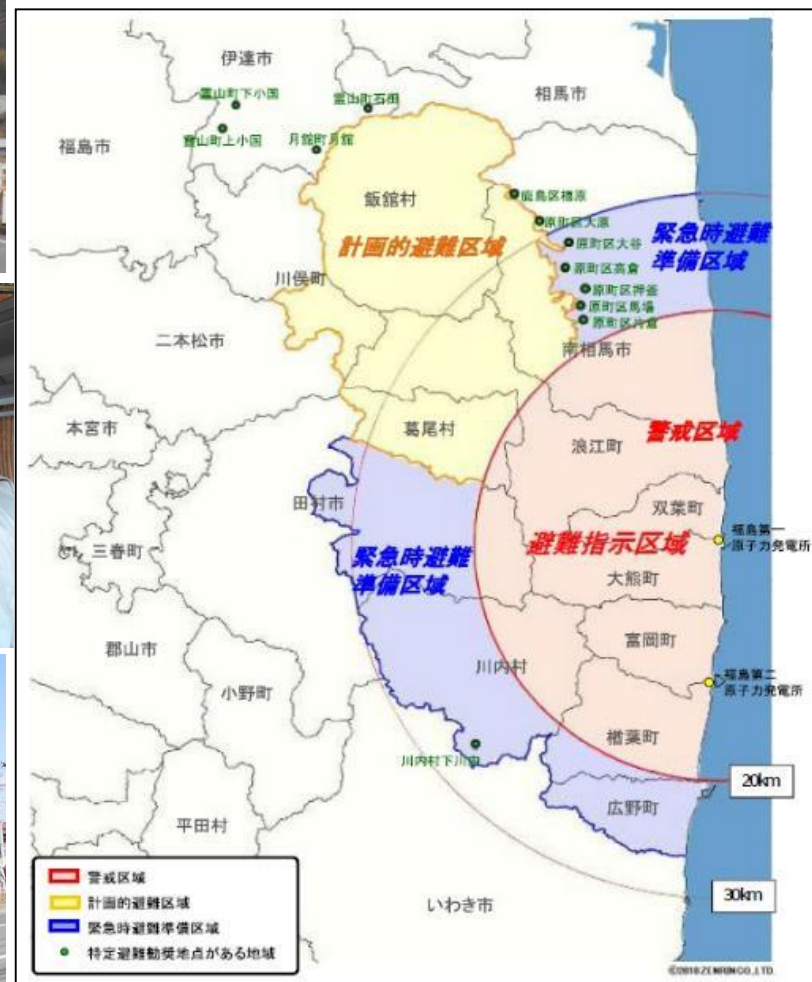


観光文化：1,000年以上の歴史を持つ国指定重要無形民俗文化財「相馬野馬追」をはじめ、多くの文化財を有している。海岸線には、北泉海浜公園を中心に、海水浴やサーフィンの名所となっている。



(鹿島区) 風力発電所と
真野川漁港

東日本大震災と福島第一原子力発電所事故

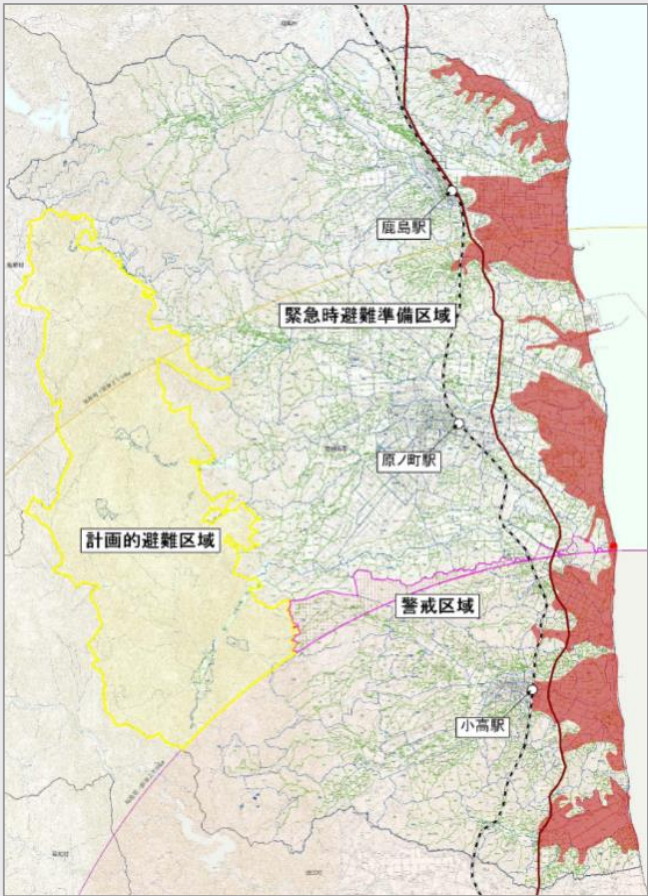


東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故による被害

- 南相馬市は東日本大震災及び原子力発電所事故により多くの人的被害・家屋被害を受けた。

【津波被害】

津波による浸水面積は40km²にのぼった。



【人的・家屋被害】

(令和5年9月30日現在)

死亡	1,157人
(直接死)	636人
(震災関連死)	521人
行方不明	0人
負傷者	59人
(重傷者)	2人
(軽傷者)	57人
家屋被害	5,312世帯
(全壊)	1,277世帯
(半壊)	1,368世帯
(一部損壊)	2,667世帯



地震により倒壊した建物



沿岸に押し寄せる津波



原子力災害による集団避難

原子力災害による集団避難

南相馬市のこれまでの取組み(年表)

- 南相馬市では、宇宙関連のスタートアップ企業の進出や協定締結、研究機関との連携、宇宙産業拠点の設置などが進み、宇宙産業の集積に向けた動きが進捗している。

2020.8	Makoto Capital(現Spurcle)が相双オフィスを設置(小高区)	2024.7	福島スペースポートの運営と関連産業集積に取り組むASTRO GATEがイノベ機構のアクセラレーションプログラムに採択
2020.12	南相馬市とMakoto Capital が連携協定を締結	2024.8	福島スペースカンファレンス2024を開催、44人の登壇者を含む300人の方を迎える イノベ機構と会津大学が南相馬市に月面環境を再現し、月面探査技術の研究開発を表明
2022.5	AstroXが創業、南相馬市に本店登記	①	初めてのロケット打ち上げ実証を実施、AstroX社超小型ロケットの打ち上げに成功 与党 復興加速化本部の第13次提言に「衛星・宇宙産業の将来の産業化を見据えた環境整備」の文言 宇宙港運営会社ASTRO GATEと協定を締結
2022.8	インターステラ テクノロジズが南相馬市と協定締結	2024.10	三菱倉庫と南相馬市が協定締結
2023.4	南相馬市が、Elevation Space、AstroXと協定締結	2024.11	② AstroX社がロケット打ち上げ実証(6mの機体を7km超の高さまで打ち上げ)に成功
2023.8	福島スペースカンファレンス2023を開催 (第1回) インクルーシブが南相馬市と協力し、衛星データを活用した実証を実施	2024.12	③ 神奈川大学がロケット打ち上げ実証(4.5mの機体を10kmの高さまで打ち上げ) 城内宇宙政策担当大臣視察
2023.9	インターステラ テクノロジズ(IST)が南相馬市に工場立地を表明	2025. 2	ロケット甲子園開催
2024. 1	東北大学と南相馬市が協定締結(宇宙・ロボット領域)	2025. 3	公明党東日本大震災復興加速化本部視察 SPACE WALKERと南相馬市が協定を締結
2024.3	南相馬市がインクルーシブ(IST社株主)と協定締結 Elevation Spaceが南相馬市に工場立地を表明 将来宇宙輸送システムと南相馬市が協定を締結	2025. 6	玄葉衆議院副議長視察
2024.4	南相馬市 商工観光部内に宇宙関連産業推進室を設置 南相馬市が三菱倉庫と宇宙領域における人事交流を開始 南相馬市から内閣府宇宙開発戦略推進事務局に出向 インクルーシブから南相馬市に出向 インクルーシブが宇宙関連子会社を南相馬市に移転登記	2025. 8	福島スペースカンファレンス2025を開催
2024.5	南相馬市がロケット打ち上げ実証に向けた住民説明を開始	2025. 9	奥水復興副大臣視察
2024.7	内閣府 宇宙政策委員会 宇宙輸送小委員会において南相馬市の宇宙港の進捗について説明 (北海道、大分県、和歌山県、鹿児島県と福島県南相馬市)		福島市航空宇宙関連産業推進事業 キックオフ

1. 実証フィールドの提供 宇宙関連スタートアップ等がぞくぞくと集結

- 既に多くの宇宙スタートアップ等が、福島にメリットを見出して集まってきている。
- このほか、今後進出を予定している宇宙スタートアップもあり。
- 直近では、令和7年3月18日に有翼型再使用ロケットを開発する「スペースウォーカー」社と連携協定締結。同社は南相馬市へ本店移転。

2022.8 協定

インターステラテクノロジズ

- 小型ロケット「ZERO」を開発し低価格な宇宙輸送サービスの提供を目指す
- 南相馬市に工場を設置

南相馬市と連携協定

小型ロケット「ZERO」



2023.5 協定

AstroX

- 気球から発射するロケットを開発
- 南相馬市に本社を置き、開発・実証を行う

南相馬市と連携協定

ロケットのイメージ



2023.4 協定

ElevationSpace

- 地球低軌道での実験プラットフォームの提供を目指す
- 南相馬市を実証フィールドとして活用

南相馬市と連携協定

プラットフォームイメージ



2024.1 協定

東北大学

- 浜通り地域の創造的復興や地域の活性化に貢献 + 東北大学福島サイエンスパーク構想の実現を加速化

南相馬市と連携協定

サイエンスパークイメージ



2023.8 協定

LAND INSIGHT

- 衛星データ活用により農林水産業等の1次産業から防災・災害対応などのDXを目指す
- 南相馬市に本社を設置

南相馬市と連携協定

圃場データベース



2024.3 協定

将来宇宙輸送システム

- 高頻度かつ大量の宇宙往還を可能とする旅客輸送システムの実現を目指す
- 南相馬市に支社を設置

南相馬市と連携協定

宇宙往還機イメージ



2024.8 協定

ASTRO GATE

- スペースポートの調査、企画、運営などを手掛ける
- 市における宇宙事業の実現に協力

南相馬市と連携協定



2024.10 協定

三菱倉庫

- 南相馬市でのインキュベーション施設の運営、研究開発施設・物流関連施設の整備等に取り組む

南相馬市と連携協定

施設イメージ



2025.3 協定

SPACE WALKER

- 有翼式の小型再使用ロケットの開発、推進薬の削減に取り組む
- 南相馬市に本店を移転予定

南相馬市と連携協定

実験機



2. 集約・拠点化

(1) 今後の取組みの方向性①

- これまで福島が取組んできたロボット産業や廃炉における放射線環境下における廃炉の取組みと親和性が高い宇宙産業に注目。南相馬市の持続性を確保する上で重要な取組み。
- 日本の宇宙産業の発展ため、宇宙産業が抱える課題解決に資するための環境整備を関係機関と連携し推進。
- 南相馬市もいわばスタートアップ(自治体)として、他には無い価値を提供すべく果敢に挑戦する。



【実証拠点】

- ① 福島ロボットテストフィールド
- ⑤ ロケット発射実証地
- ⑥ 燃焼実験候補地※ニーズとして聴取り、立地はイメージ
- ⑦ ステージ燃焼実験候補地※ニーズとして聴取り、立地はイメージ

【人材育成拠点、実証拠点】

- ④ 福島県立テクノアカデミー浜
(職業能力開発短期大学校)

【開発拠点】

- ② 宇宙スタートアップ向け大規模貸工場
- ③ 南相馬市産業創造センター (貸事務所・貸工場)

【規制改革】

- ⑧ 新技術実装連携“絆”特区

【ネットワーク】

【サプライチェーン】

2. 集約・拠点化

(1) 今後の取組みの方向性②

①福島ロボットテストフィールド、②復興工業団地(宇宙スタートアップ向け貸工場)



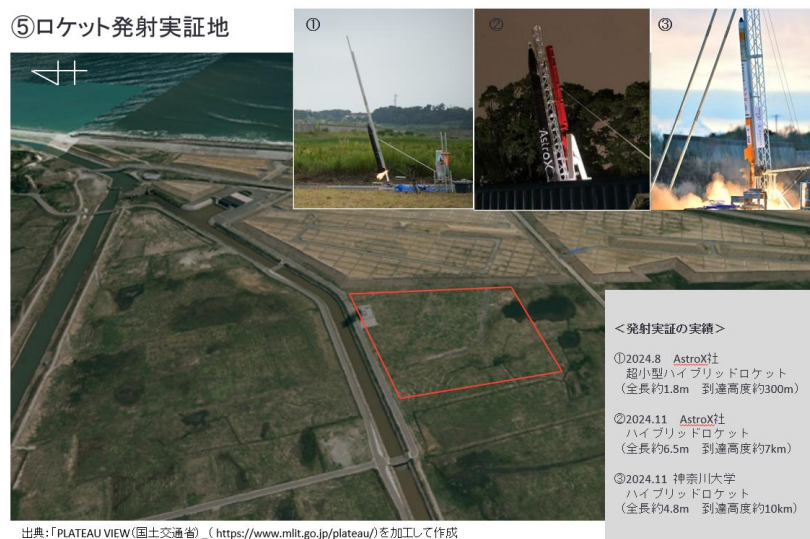
出典:「PLATEAU VIEW(国土交通省)」(<https://www.mlit.go.jp/plateau/>)を加工して作成

③南相馬市産業創造センター、④テクノアカデミー浜



出典:「PLATEAU VIEW(国土交通省)」(<https://www.mlit.go.jp/plateau/>)を加工して作成

⑤ロケット発射実証地

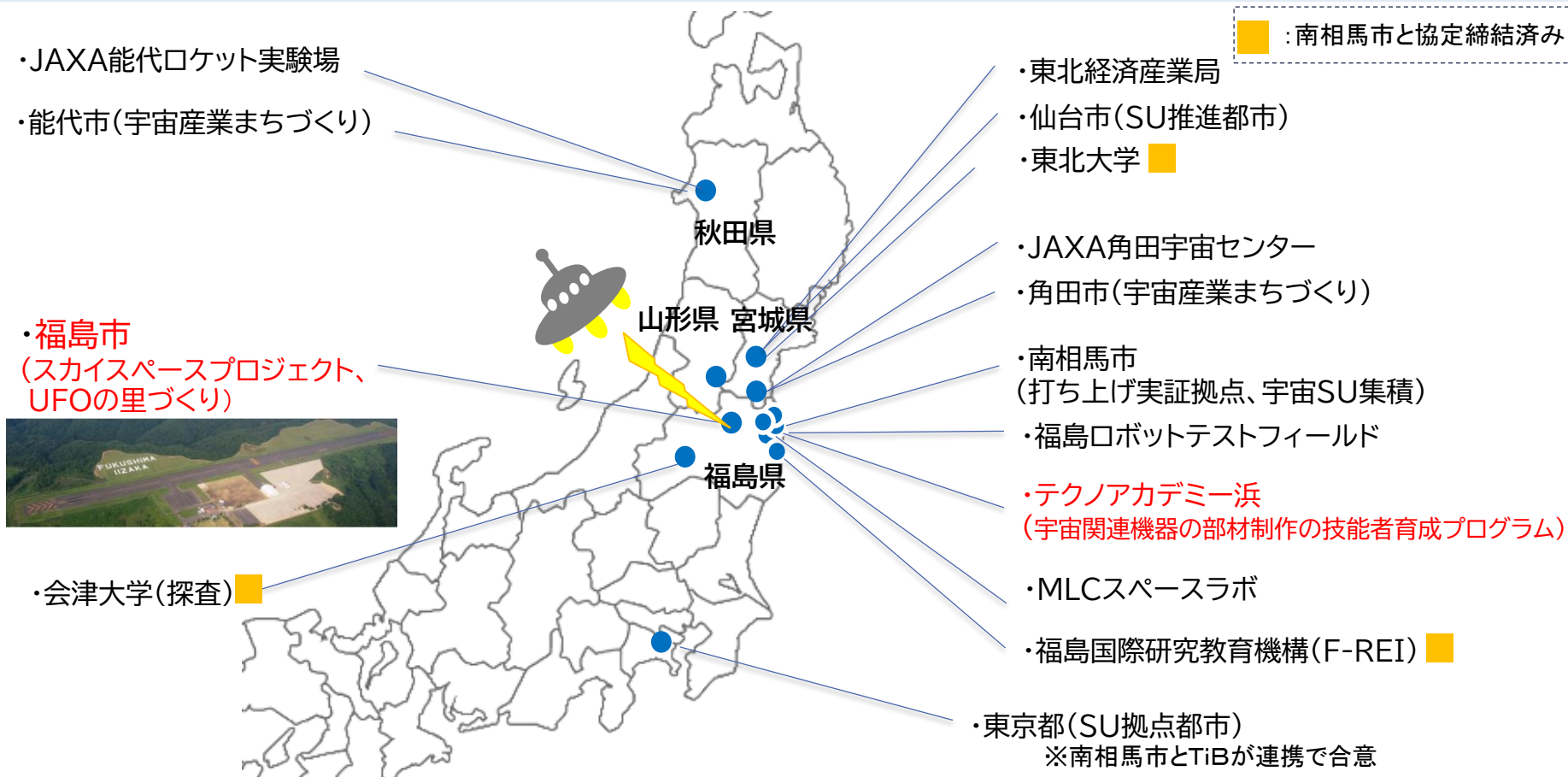


出典:「PLATEAU VIEW(国土交通省)」(<https://www.mlit.go.jp/plateau/>)を加工して作成

2. 集約・拠点化

(2) 周辺の研究機関やスタートアップ推進都市等との連携

- 東北大学、会津大学、JAXA角田宇宙センター、福島ロボットテストフィールド、福島国際研究教育機構(F-REI)などの研究機関や、スタートアップ推進都市と随時連携を進めている。
- また、宇宙関連SUからの高い需要がある実証試験施設用地について、南相馬市以外の土地等も企業に情報提供し、福島が宇宙産業の拠点となるよう、関係自治体と連携していきたい。



※南相馬市が連携、または連携協定を締結している団体をもとに整理(R7. 9. 4時点)

3. 政府文書への位置づけ

(1)「第3期復興・創生期間」における基本方針

「第3期復興・創生期間」における基本方針にて、2030年頃までの自立的・持続的な産業発展のため、航空宇宙を含むイノベ重点分野において、「あらゆるチャレンジが可能な地域」「地域の企業が主役」「構想を支える人材育成」を柱として、「実証の聖地」を目指す位置づけられた。
(令和7年6月20日閣議決定)

【第3期復興・創生期間の基本方針】(抜粋)

⑤福島イノベーション・コースト構想を軸とした産業集積等、事業者再建

・地元事業者による新たな事業展開や新たな取引拡大と、域外からの新たな活力の呼び込みの両輪で進めることが重要であるとの考えの下、「あらゆるチャレンジが可能な地域」、「地域の企業が主役」、「構想を支える人材育成」の3つを取組の柱として、「**実証の聖地**」を目指して、廃炉、ロボット・ドローン、エネルギー・環境・リサイクル、農林水産業、医療関連、航空宇宙の重点分野を中心に、食に関する新技術(フードテック)も含め、企業立地補助金等を効果的に活用し、産業集積や社会課題解決に資する取組を進める。

・**衛星・宇宙関連の将来の産業化を見据えた環境整備につながるものも含め、実用化開発や実証の誘致等を通じ、スタートアップ企業等を呼び込む。**

【2.復興を支える仕組み】(抜粋)

(1)復旧・復興事業の財源等

うち福島分は
1.6兆円程度

・現時点で、令和8年度から5年間の復旧・復興事業の規模は1.9兆円程度と見込まれ、令和7年度までの事業規模が33兆円程度と見込まれることを踏まえると、令和12年度までの20年間の事業規模については、34.9兆円程度となると見込まれる。

・福島県については、県や市町村が進めている事業を十分に確保した上で、次の5年間の全体の事業規模が今の5年間に十分を超えるものと見込まれる。

3. 政府文書への位置づけ

(2)「福島イノベーション・コースト構想を基軸とした産業発展の青写真」

復興庁、経済産業省、福島県によって策定された、浜通り地域等の自立的・持続的な産業発展の実現に向けた産業発展のビジョン。

第2期復興・創生期間後の次の5年間にに向けた課題認識や地域の実情を踏まえ、令和7年6月6日に改定。その中で、本市の宇宙の取り組みが、新たに位置付けられることになった。

中長期的に目指していく姿(抜粋)

(3)重点分野における分野別戦略

⑥航空宇宙

【iii 目指すべき姿と具体的な取組】

～地域の稼ぎへの貢献～

- ・宇宙産業は、近年、浜通りに宇宙スタートアップが集積しつつある状況。
- 福島を含む地域企業によるロケットや衛星といった宇宙産業への貢献と、それを通じた地域経済の発展が、好循環になるように目指す。

～具体的な取組～

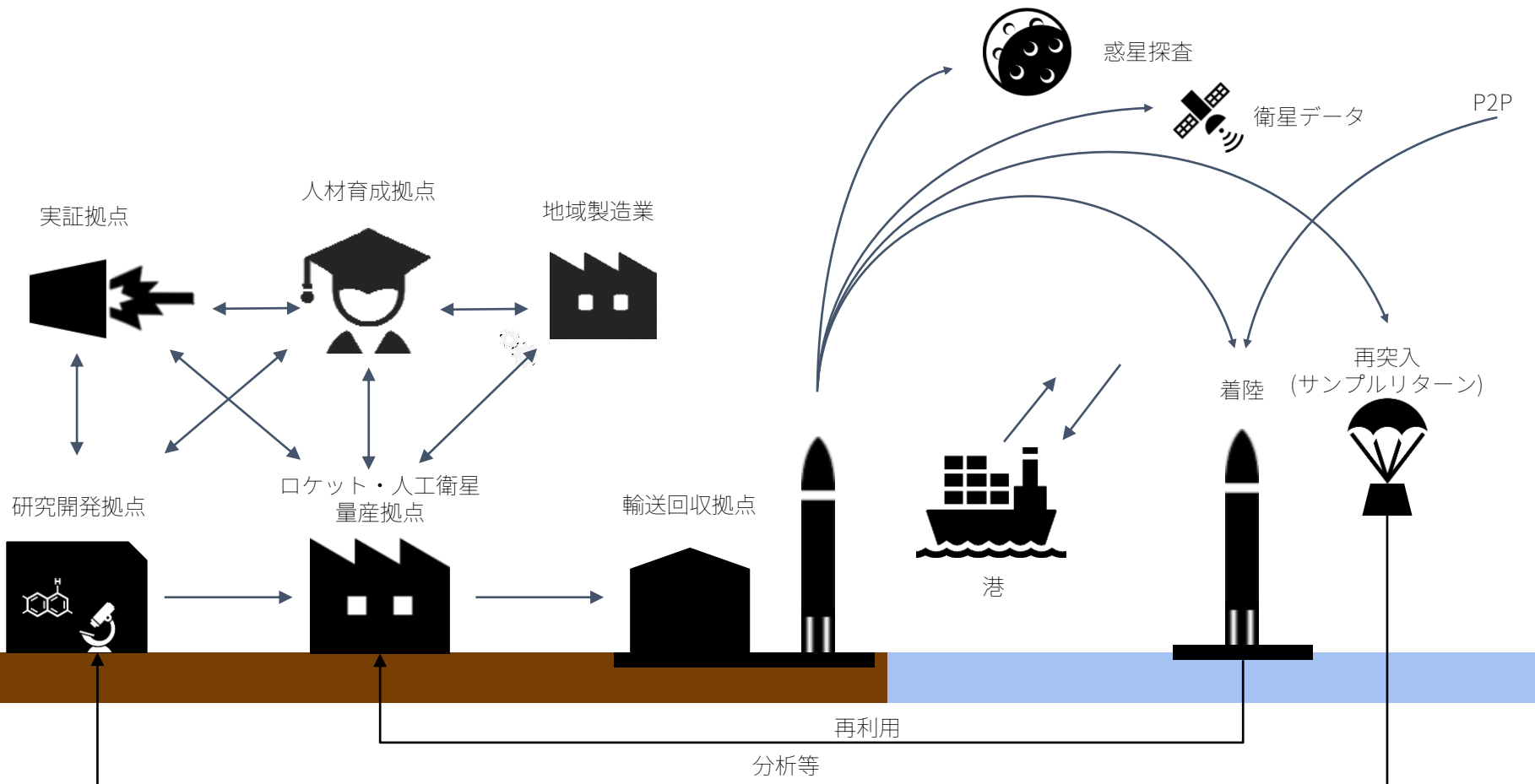
(宇宙スタートアップの挑戦の場としての立ち位置の確立)

- ・宇宙関連機器製造の現場技術を持つ人材育成を促進。
- ・経験のある企業OB等の人材とスタートアップ企業のマッチングに対する支援。
- ・大都市のスタートアップ支援事業との連携や、JAXA角田宇宙センターや東北大学等の東北地方の研究機関等との協働を図り、広域的にスタートアップを支援。
- ・「連携“絆”特区」の指定を生かした、規制合理化及び国内唯一の開発環境の地位を追求。
- ・SBIRフェーズ3基金をはじめ、宇宙政策や宇宙産業の動向に注視しながら、各社の協調領域といえる実証や量産への支援。

(宇宙産業のサプライチェーンの構築と強靱化)

- ・地元企業と進出企業の量産体制を構築。
- ・大手企業等との取引拡大を推進。
- ・企業の生産性や技術力の向上に向けた取組を推進。

「夢」から「実現可能な未来に」



<我々のミッション>

- ・浜通り地域等の産業を回復するため、**新たな産業基盤の構築**
- ・単に復旧だけでなく、我が国や世界のモデルとなる創造的復興